第44回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【部会②】

日時:2024年6月5日(水)

部会①・部会②・部会③10:00~12:00 (予定)

場所: TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川高輪口

次 第

【部会②】

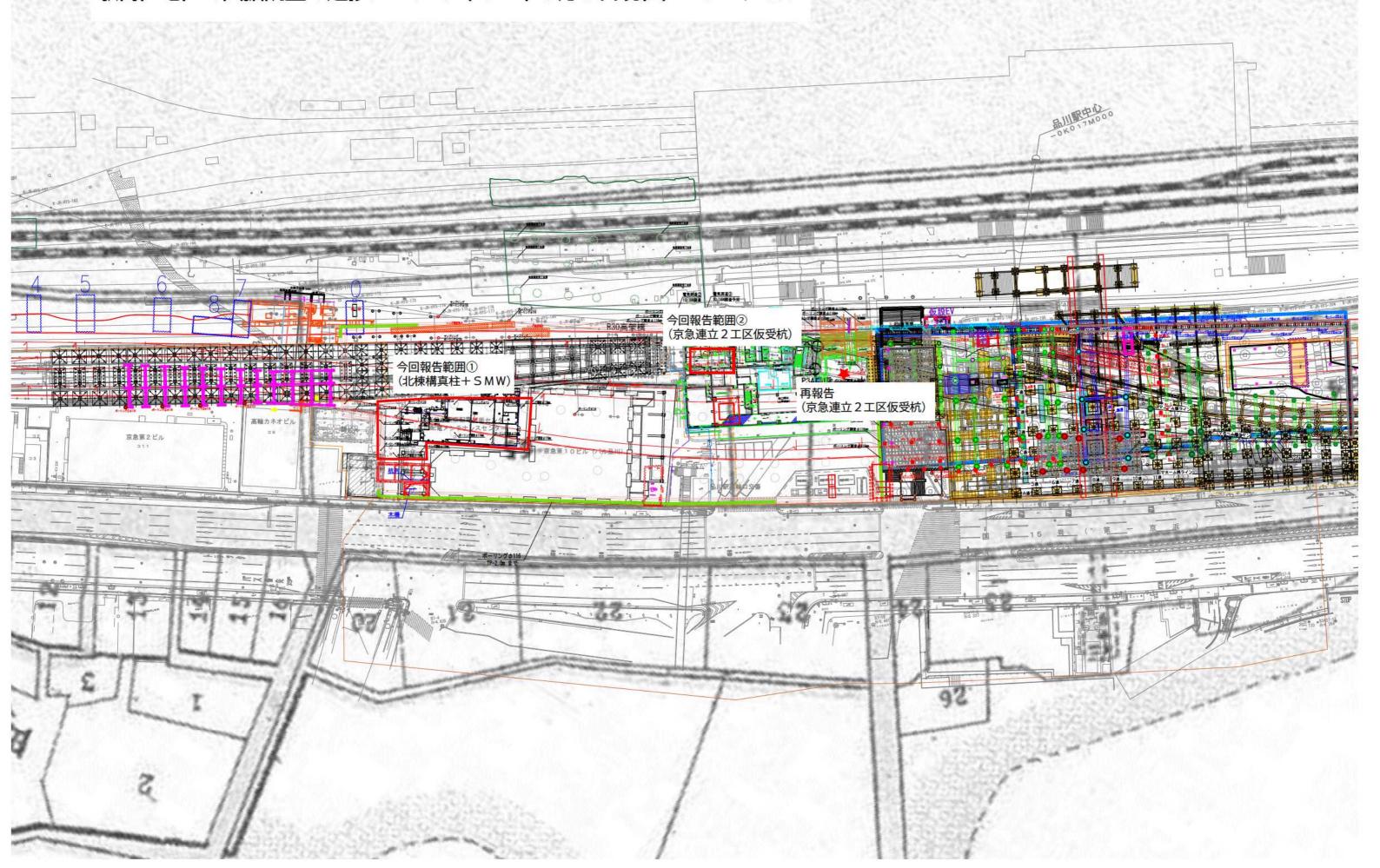
(1) 開会

(2) 調査の進捗について

【資料1】

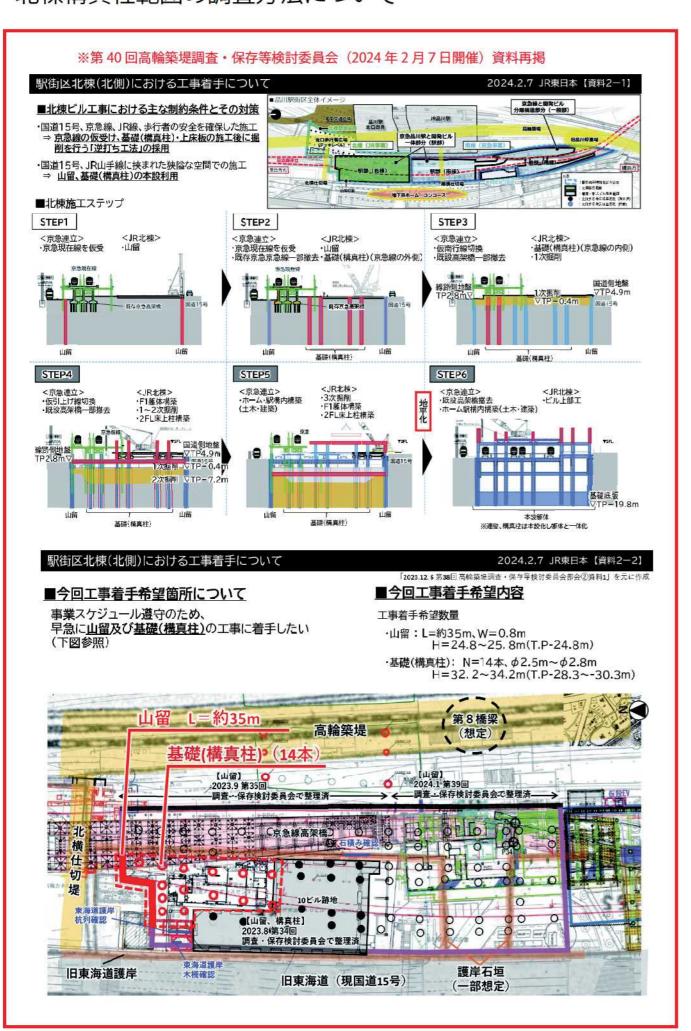
- (3) その他
- (4) 閉会

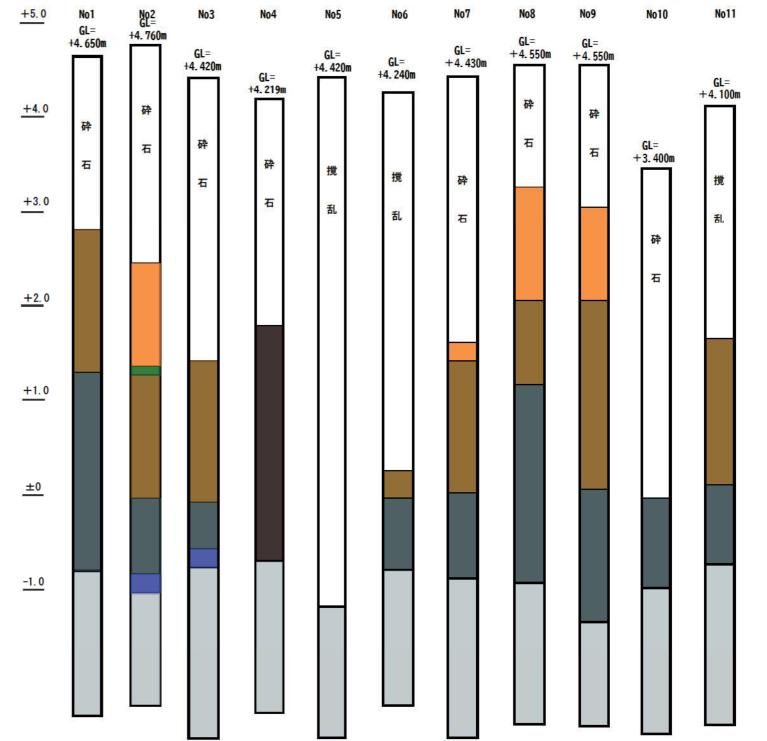
駅街区地区の試掘調査の進捗について(2024年6月3日現在) S=1/1000



【資料1-2】

北棟建築工事にかかるボーリング調査 【SMW 部 ※No13·16~18】 No. 18 GL= No. 17 No. 16 調査位置図 S=1/250 +4. 190m +4. 190m +4. 190m GL= +3.840m 【凡例】 砕 黄褐色ブロック土 (埋立土) 石 石 茶褐色ブロック土+灰色ブロック土 (埋立土) +3. Om No. 4 No. 10 No. 10 石 黒色土 (一度攪拌されている?) 石 暗灰色粘土(泥土) 硬質粘土 +2. Om ※柱状図のスケールは 1/40、数字は標高値 (TP) を示す No. 17 No. 2 リング調査 Ø 116mm +1.0m No. 18 No. 7 【調査所見】 ・黄褐色ブロック土は、他のボーリング地点等 でも確認されており、一帯を埋立てた時の埋 立土である。 ・茶褐色ブロック土と灰色ブロック土の混入土 ※No.12・14・15 は欠番 と、黒色土は、一度人為的な手が加えられて 形成された層であると考えている。 -1. Om (浚渫等による攪拌?) 硬質粘土層の検出高は TP-1.0m以下であり、 【凡例】 特に No13 は他のボーリング地点に比べると低 木柵 構真柱打設位置 いが、その原因は不明である。 -2. Om SMW 施工位置 (浚渫により窪んだものか?遺構か?) (実線は今回対象) 👉 ボーリング調査位置 No. 13 No₁₇ No18 No. 16





【凡例】 ※柱状図のスケールは 1/40、数字は

標高 (TP) を示す 黄褐色ロームブロック (埋立土)

茶色+灰色ブロック土

- オリーブ粘土色ブロック
 - 黒褐色シルト(貝片混じる)
- 暗褐色土
- 暗灰色粘質土(泥土)
- 硬質粘土

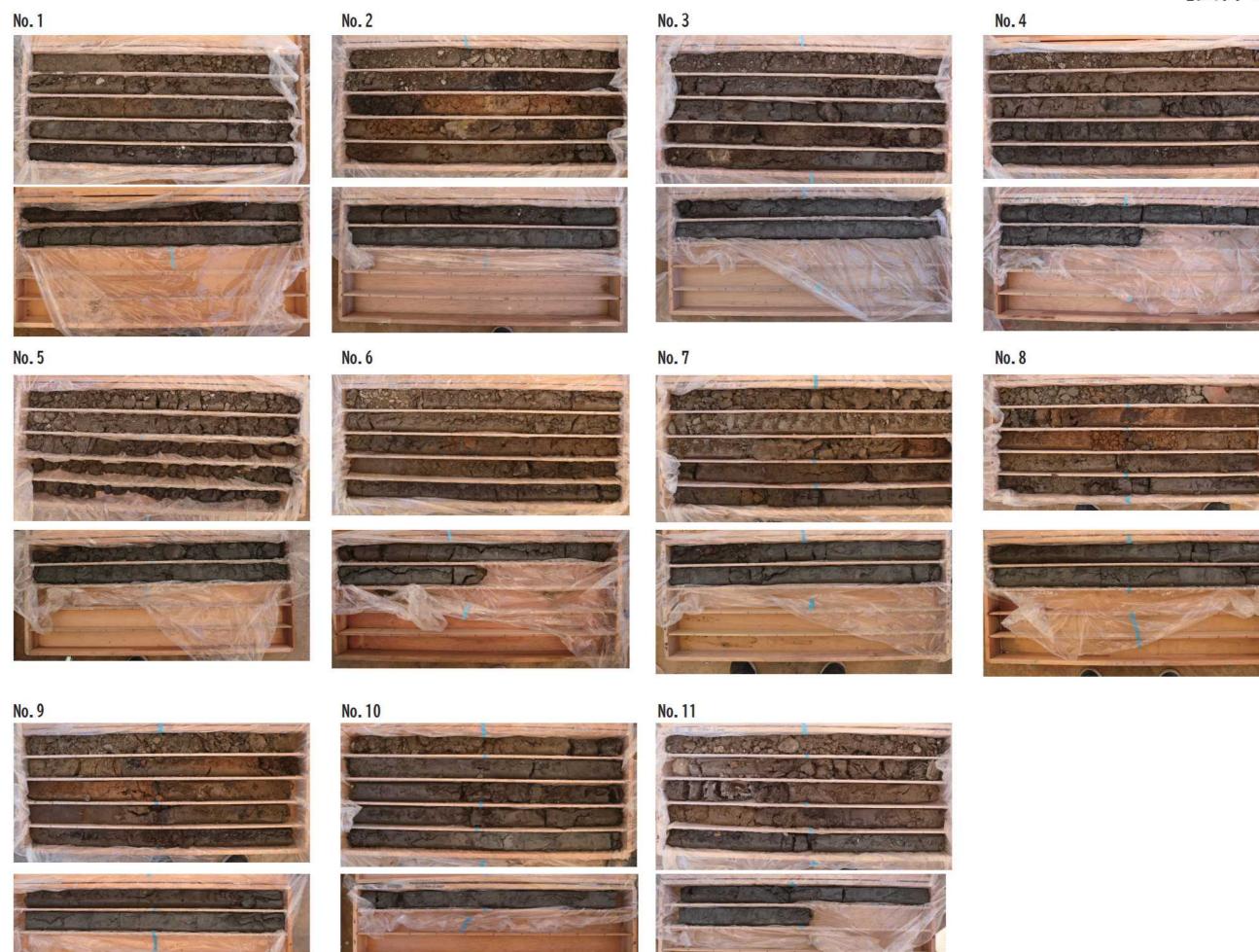
【調査の経緯と目的】

- ・第 40 回高輪築堤調査・保存等検討委員会において、事業者から「山留めと構真柱範囲を先行して 調査を行いたい」という発言あり。
- →文化財調査としては「構真柱打設前に面的調査をすること」が望ましいと考える。
- ・構真柱部分のみの調査が可能かを検討。
- *ライナープレートを用いた調査を行う場合、TP-2.0m程度まで人力掘削可。
- *止水等を目的とした薬液注入は、土質が変わるため原則不可。
- →TP-2.0mで調査が完了する(硬質粘土層が確認できる)ことが条件となる。

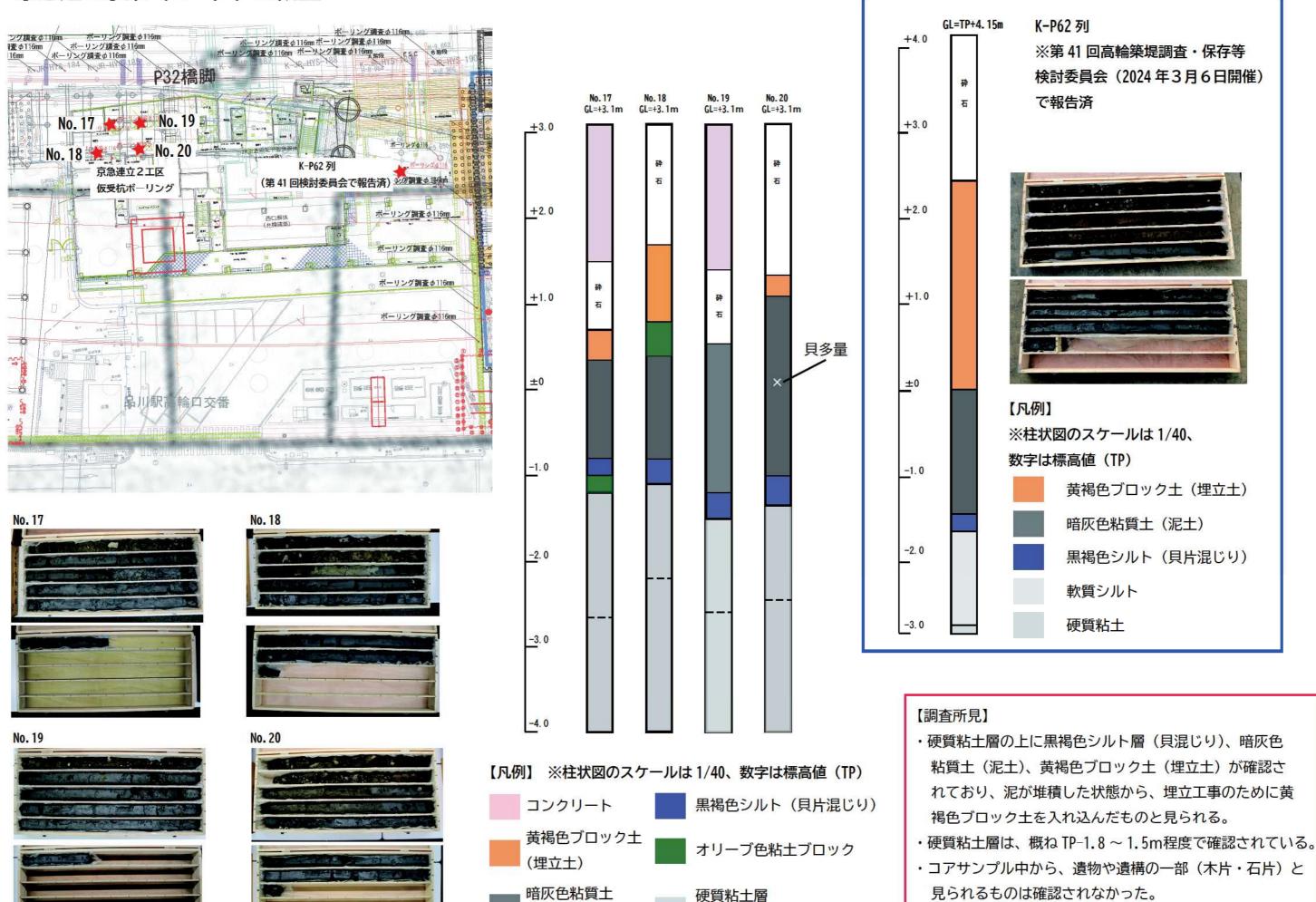
【調査の成果】

- ・すべての地点の TP 1.0m付近で硬質粘土層 (基盤層) が確認されている。
- ・構造物の一部と見られるもの(木片・石片)は確認されていないが、遺物を採取している(6点) 【今後の進め方】
- ・構真柱部分については、ライナープレートを利用した調査を行う。
- ・溝、建物基礎等(遺構)に注意して掘削を行い、これらが確認された場合は、調査の進め方を再検討する。
- ・将来的な面的調査に向けた調査の基礎的資料を得られるようにする。

【資料1-4】



京急連立事業 (2工区) の調査



(破線より上はやや軟質)

(泥土)